



サウスチャイナシー第6ステージ優勝の西谷(中央)と3位の飯島(右)

シクリスムエコー No.146 2008年2月号



2007 ツアー・オブ・サウスチャイナシー…………… 2

タスマニア・スポーツカーニバル…………… 4

ツアー・オブ・タイランド…………… 5

ジョルジア・マレーシア…………… 6

2008 シクロクロス世界選手権…………… 8

2008 年度主要事業予定(案)…………… 9

北京オリンピックの選手選考について…………… 10

2008年 JCF ジュニア選手強化事業について…………… 11

海外各大会日本代表選手団…………… 12

2008年アジア選手権(予告)…………… 13

競技大会結果…………… 14

競技大会結果-平成19年度地区プロ自転車競技大会-…………… 14

2008年シクロクロス世界選手権大会 日本代表選手団…………… 15

インフォメーション…………… 16

新理事の紹介…………… 16

2008年ツアーオブニュージーランド 日本代表選手団…………… 16

連盟の動き…………… 16



この広報誌は、「競輪公益資金」の補助を受けました。

<http://keirin.jp>
<http://ringing-keirin.jp>



2007 ツアー・オヴ・サウスチャイナシー

西谷がステージ2勝するも、総合は4位に終わる



12月23日(ステージ1) 71.3km

HSBC香港ステージ

HSBCビル前からパレードスタートし14km地点でレーススタート。1周8kmのアップダウンコースを7周しHSBCビル前に戻ってゴールのレース。

中盤過ぎにレースが動き、3つのグループに分かれた。残念ながらトップグループに誰も入れず、セカンドグループで飯島、西谷がゴールした。

12月24日(ステージ2) 90km

Shenzhen Longhuaステージ

4.5kmの周回を20周で行われるレース。前半から西谷・相川がレースを作り、中盤は角がトップを走る。

後半には飯島・盛が主導権をとり、終盤に飯島が西谷のアシストをしてゴールに挑み4位に西谷が入った。今日は無駄な動きもあったが積極性が有り、日本をアピールできた。チーム総合で3位、アジアパシフィックチーム総合1位の位置にいる。

12月25日(ステージ3) 111km

Guangzhou Dongguanステージ

3.7kmの周回を30周で行われるレース。前半10周目のポイントで飯島が5点を獲得。15周目で西谷が3ポイント、20周目に5ポイントを取り総合計19ポイントでポイント賞2位の位

置になった。盛が足の痛みを訴えたためレースを中断させた。

12月26日(ステージ4) 107.5km

Anta Guangzhouステージ

廣州大学キャンパス内4.3kmの周回を25周、少しアップダウンのコース。1、2回目のポイントで西谷、角がともに5ポイントを獲得。このステージも日本チームがレースを動かし積極的に攻めた。盛の抜けた分、相川・片山が前段で頑張り、最後に角が西谷をアシストしゴールに来たが4位に終わった。

12月27日(ステージ5) 99.6km

Foshan Shi Ji Lianステージ

佛山市スポーツスタジアムメインストリートの往復8.3km12周の平坦コース。1周目から4人のグループが後続に40秒の差をつけ逃げたが、40km過ぎに飯島がペースを上げ23秒差に縮めた。三船(CMS)ら3人がアタックし、今度はこの3人が40秒の差をつけ終盤まで逃げた。ラスト2周で1つの集団になりゴール勝負で西谷がここでも4位に終わる。

12月28日(ステージ6) 105.8km

Mnserno Zhongshanステージ

中山市中心部の商店街を走る2.4km44周の平坦コース。2周目に

飯島、西谷が飛び出し4人のグループで周回を重ねる。後続は相川、片山、角がコントロールし、西谷のポイントゲットに飯島がアシストするチームワークでこのステージの後半まで主導権を握る。ラスト8周で1つのグループとなりスプリント勝負となり、ゴール前で西谷が抜け出し1位。飯島も続いて来たが惜しくも3位。角はゴール前のクラッシュに巻き込まれ集団ゴールとなった。今日で西谷が30ポイントの差をつけてポイント1位になった。

12月29日(ステージ7) 84km

ZA Auto Zhuhaiステージ

珠海市の海岸道路往復4.2kmを20周する、平坦海からの横風のあるコース。中国本土最後のステージ。前日の疲れもあり今日は無理せずにゴール勝負に徹した。飯島のアシストで角がゴール勝負で先行するも寸前で追い込まれ2位になってしまった。

12月30日(ステージ8) 92.2km

Makau Coloaneステージ

観光スポットのマカオタワー広場からパレードスタートし、友誼大橋を渡り、コロアナ町の周回アップダウンコース9kmを10周し、最後に2.2kmのヒルクライムでゴールとなる、きついレース。

今日は、最後のヒルクライムまで力を温存し、最後にかかる作戦を取った。三船がポイントを前半からゲットしたので西谷のポイント総合優勝が決まった。後半にかかる日本チームは、最終周に相川・片山が前を走り、西谷・飯島・角らを高位置で山に登らせ結果、西谷がこの山を征し1位でゴールした。その結果、角が7位、飯島23位、片山45位、相川57位で全ステージ終了した。

チーム総合成績は、オムニバイク(ロシア)を逆転し2位に浮上、アジアパシフィック総合は、逃げ切りで日本が優勝、個人総合4位西谷、9位飯島、ポイント総合は、85点で西谷。

皆良く頑張った。来年もチャレンジしたい。トラック中距離系のトレーニングになりU23の経験にもなりこの経験を生かして飛躍して欲しい。

(監督 福田 公生)

【競技結果】

2007ツアー・オブ・オーストラリア

(2007/12/23-30 中国/マカオ)

個人総合成績

1	TANG Wang Yip	HKG	17:21:47
2	TSUI Kong	CHN	17:22:08
3	NIELSEN JacobJ	DEN	17:22:21
4	西谷 泰治	愛知 愛三工業	17:22:52
9	飯島 誠	JPCA BS アンカー	17:24:17
17	伊勢 直人	JPN CRF	17:25:49
26	片山 和正	岡山 鹿屋体育大	17:27:08
29	相川 将	埼玉 BS アンカー	17:27:50
33	角 令央奈	兵庫 鹿屋体育大	17:28:27
35	秋山 尚徳	JPN CRF	17:28:58
55	三船 雅彦	JPN CMS	17:30:15
	盛 一大	愛知 愛三工業	DNF

団体総合成績

1	Team Horsens	52:11:03
2	日本ナショナルチーム	52:12:54
3	Omnibike	52:14:10

個人総合ポイント賞

1	西谷 泰治	愛知 愛三工業	85p
2	MUKHAMEDOV Temur	UZB	48p
3	NIELSEN KimK	DEN	43p

第1ステージ (71.3km)

1	TANG Wang Yip	HKG	1:39:13
2	TSUI Kong	CHN	1:39:13
3	NIELSEN JacobJ	DEN	1:39:13
6	飯島 誠	JPCA BS アンカー	1:40:34
7	西谷 泰治	愛知 愛三工業	1:40:36
15	三船 雅彦	JPN CMS	1:42:12
23	盛 一大	愛知 愛三工業	1:42:12
24	相川 将	埼玉 BS アンカー	1:42:12
30	片山 和正	岡山 鹿屋体育大	1:42:12
32	伊勢 直人	JPN CRF	1:42:12
56	角 令央奈	兵庫 鹿屋体育大	1:45:24
69	秋山 尚徳	JPN CRF	1:45:24

第2ステージ (90km)

1	CHRISTIANSEN Morten	DEN	1:58:24
2	ZOU Rongxi	CHN	1:58:24
3	TUYCHIEV Vladimir	UZB	1:58:24
4	西谷 泰治	愛知 愛三工業	1:58:26

8	三船 雅彦	JPN CMS	1:58:37
19	角 令央奈	兵庫 鹿屋体育大	1:58:37
33	伊勢 直人	JPN CRF	1:58:37
35	飯島 誠	JPCA BS アンカー	1:58:37
39	盛 一大	愛知 愛三工業	1:58:37
41	相川 将	埼玉 BS アンカー	1:58:37
51	秋山 尚徳	JPN CRF	1:58:37
76	片山 和正	岡山 鹿屋体育大	1:58:37

第3ステージ (111km)

1	NIELSEN KimK.	DEN	2:31:19
2	Ji Xitao	CHN	2:31:19
3	WU Po Hung	TPE	2:31:19
16	飯島 誠	JPCA BS アンカー	2:31:19
23	三船 雅彦	JPN CMS	2:31:19
37	秋山 尚徳	JPN CRF	2:31:19
43	西谷 泰治	愛知 愛三工業	2:31:19
51	伊勢 直人	JPN CRF	2:31:19
61	片山 和正	岡山 鹿屋体育大	2:31:19
74	相川 将	埼玉 BS アンカー	2:31:19
89	角 令央奈	兵庫 鹿屋体育大	2:31:19
	盛 一大	愛知 愛三工業	DNF

第4ステージ (107.5km)

1	NIELSEN KimK	DEN	2:18:10
2	WU Po Hung	TPE	2:18:10
3	KUDENTSOV Sergey	RUS	2:18:10
4	西谷 泰治	愛知 愛三工業	2:18:10
6	三船 雅彦	JPN CMS	2:18:10
28	伊勢 直人	JPN CRF	2:18:10
33	秋山 尚徳	JPN CRF	2:18:10
51	角 令央奈	兵庫 鹿屋体育大	2:18:10
55	相川 将	埼玉 BS アンカー	2:18:10
57	片山 和正	岡山 鹿屋体育大	2:18:10
80	飯島 誠	JPCA BS アンカー	2:18:10

第5ステージ (99.6km)

1	NIELSEN KimK.	DEN	2:15:45
2	WU Po Hung	TPE	2:15:45
3	PEREZ Amaury	DOM	2:15:45
4	西谷 泰治	愛知 愛三工業	2:15:45
9	角 令央奈	兵庫 鹿屋体育大	2:15:45

20	三船 雅彦	JPN CMS	2:15:45
33	伊勢 直人	JPN CRF	2:15:45
34	秋山 尚徳	JPN CRF	2:15:45
46	飯島 誠	JPCA BS アンカー	2:15:45
75	相川 将	埼玉 BS アンカー	2:15:45
83	片山 和正	岡山 鹿屋体育大	2:15:45

第6ステージ (105.8km)

1	西谷 泰治	愛知 愛三工業	2:22:54
2	KUDENTSOV Sergey	RUS	2:22:55
3	飯島 誠	JPCA BS アンカー	2:22:55
14	三船 雅彦	JPN CMS	2:22:55
29	秋山 尚徳	JPN CRF	2:22:55
31	伊勢 直人	JPN CRF	2:22:55
40	相川 将	埼玉 BS アンカー	2:22:55
70	片山 和正	岡山 鹿屋体育大	2:22:55
72	角 令央奈	兵庫 鹿屋体育大	2:22:55

第7ステージ (84km)

1	MA Haijun	CHN	2:00:42
2	角 令央奈	兵庫 鹿屋体育大	2:00:42
3	KARIMOV Ruslan	UZB	2:00:42
10	三船 雅彦	JPN CMS	2:00:42
22	西谷 泰治	愛知 愛三工業	2:00:42
23	伊勢 直人	JPN CRF	2:00:42
44	秋山 尚徳	JPN CRF	2:00:42
74	飯島 誠	JPCA BS アンカー	2:00:42
78	相川 将	埼玉 BS アンカー	2:01:04
79	片山 和正	岡山 鹿屋体育大	2:01:10

第8ステージ (92.2km)

1	西谷 泰治	愛知 愛三工業	2:15:20
2	TANG Wang Yip	HKG	2:15:22
3	MELICIANO RUAS Sergio	POR	2:15:28
7	角 令央奈	兵庫 鹿屋体育大	2:15:41
16	秋山 尚徳	JPN CRF	2:16:06
18	伊勢 直人	JPN CRF	2:16:09
23	飯島 誠	JPCA BS アンカー	2:16:19
45	片山 和正	岡山 鹿屋体育大	2:17:00
57	相川 将	埼玉 BS アンカー	2:17:48
69	三船 雅彦	JPN CMS	2:20:35



Dream Skyward.

JAL

ご予約・お問い合わせ

www.jal.co.jp

国内線 ☎ 0120-25-5971
(営業時間 6:30~22:00/年中無休)国際線 ☎ 0120-25-5931
(営業時間 8:00~21:00/年中無休)

タスマニア・スポーツカーニバル

オリンピックに向けUCIポイント獲得



タスマニア・スポーツカーニバルが12月26～30日、ラトロブ、ローンストーン、ダベンポートの3ヶ所で行なわれた。今回の目的はスプリントとチームスプリントのUCIポイントを獲得する事である。

ラトロブではチームスプリント（北津留・渡邊・永井）とスプリント・渡邊が優勝、2位は北津留だった。

ローンストーンでは2位にチームスプリントとスプリントの渡邊。

ダベンポート1日目は1000mハンデキャップで和田見が優勝、ケイリンにおいて永井が3位。2日目はチームスプリントと2000mホイールレースで和田見が優勝。スプリントの渡邊とスクラッチの和田見が2位、ケイリンの永井が3位であった。

今回、初めて平面バンクを経験したがスプリントでも11秒2～3で走り抜けることが出来た。このバンクは私達が想像する陸上競技場の形状ではなく、ほとんど円に近い競技場で直線はわずか30m位でコーナーが大きく意外に走りやすかった。

競技日程は5日間で1日しか休養日がなかったため、集中力が途切れてしまったところがあったが、和田見は初めてのハンデキャップレースにも順応して最終日には優勝した。ポイントレースでも積極的な走りが見られた。

きつい競技日程でも外国の主力選手は1日に3～4種目を当たり前になしている。彼らのタフさを目の当たりにし、今後日本選手の強化課題を検討していきたい。（阿部 良二）



【競技結果】

(2007/12/26 ラトロブ 450m 5°)

- 男子スプリント
- 1 渡邊 一成 JPCA 福島
 - 2 北津留 翼 JPCA 福岡
 - 3 Azizul Hasni MAS



- 男子ケイリン
- 1 Shane Kelly
 - 2 Mark French
 - 3 Ben Kersten
 - 4 永井 清史 JPCA 岐阜

- 男子チームスプリント
- | | |
|--------------|-------|
| 1 日本ナショナルチーム | 45.05 |
| 2 VIS 1 | 45.52 |
| 3 Malaysia | 46.30 |

- 女子ポイントレース
- 1 Laura McCaughey
 - 2 Kirsty Broun

- 3 Jessica Berry
 - 8 和田見里美 鳥取 中京大学
- (2007/12/28 ラトロブ 275m 42° 板張)

- 男子スプリント
- 1 Shane Perkins
 - 2 渡邊 一成 JPCA 福島
 - 3 Mark French
 - 4 北津留 翼 JPCA 福岡

- 男子ケイリン
- 1 Shane Kelly
 - 2 Mark French
 - 3 Jason Niblett
 - 4 永井 清史 JPCA 岐阜
 - 8 土屋 壮登 埼玉 順天堂大学

- 男子チームスプリント
- | | |
|--------------|-------|
| 1 Australia | 51.94 |
| 2 日本ナショナルチーム | 52.42 |

- 女子1000mハンデキャップレース
- 1 Kirsty Broun 1:20.52
 - 2 Laura McCaughey
 - 3 Harriet Kossman
 - 4 和田見里美 鳥取 中京大学

- 女子2000mホイールレース
- 1 Sarah Cure
 - 2 Kate DePaoli
 - 3 Melissa Hoskins
 - 5 和田見里美 鳥取 中京大学

- 女子スクラッチレース
- 1 Laura McCaughey 6:21.07
 - 2 Kate Cullen
 - 3 Kirsty Broun
 - 4 和田見里美 鳥取 中京大学

- 女子ポイントレース
- 1 Kirsty Broun
 - 2 Kate Cullen
 - 3 Gina Grain
 - 8 和田見里美 鳥取 中京大学

- (2007/12/29-30 ダベンポート 450m 3°)
- 男子スプリント
- 1 Mark French
 - 2 渡邊 一成 JPCA 福島
 - 3 Scott Sunderland

- 男子ケイリン
- 1 Azizul Hasni
 - 2 Shane Kelly
 - 3 永井 清史 JPCA 岐阜

- 男子チームスプリント
- | | |
|--------------|--|
| 1 日本ナショナルチーム | |
| 2 VIS 1 | |
| 3 Malaysia | |

- 女子1000mハンデキャップレース
- 1 和田見里美 鳥取 中京大学
 - 2 Emma Smith
 - 3 Esther Pugh U'ren

- 女子2000mホイールレース
- 1 和田見里美 鳥取 中京大学
 - 2 Amy Cure
 - 3 Harriett Kossman

- 女子スクラッチレース
- 1 Laura McCaughey
 - 2 和田見里美 鳥取 中京大学
 - 3 Sarah Kent

ツアー・オブ・タイランド

若き新星ナショナルチームの新たな試み

第1ステージ 前半の攻撃に集中してスタートするものの、6名、10名と逃げられる、ここには柿沼が含まれるのみ。その差が3分開いた所で、マトリック스가先頭を引き始め差を詰めるが、日本チームは中盤一気に勝負をかけるために待機させていた。伊藤、内間の2名を攻撃に出し、集団が3つに割れ越海と平塚がとり残される。内間と伊藤は20kmかけて先頭に追いつきかけるが、新たなアタックが始まり振り出しに戻る。気温の高さから内間が痙攣で離脱するが、異常な粘りで復帰。次は伊藤が痙攣で遅れる。内間は回復した足で先頭を追いかけ、残り8kmで先頭集団に復帰。柿沼と内間が先頭グループでゴール。

第2ステージ 30km地点から逃げが8名で決まり、残り20km地点で集団につかまるもゴールは内間が6位、伊藤7位。

第3ステージ 2人の逃げがスタートから決まり、中間地点では20分開くが日本は動かずイランが追撃。1分ほどで逃げ切られる。

第4ステージ コースマップでは差ほどきつくはないが、なんとなくいやな予感がしてスタート直後に25Tのギヤに変更。激しく動き集団が二つに割れるが、またしても柿沼が先頭グループで他は全員が第2グループだ。山岳が始まる前に水を取るよう指示するが、チームカーに選手が戻ってこない。レースに夢中になりタイミングをはずしたのだ。ここで下がるかとまずい所で内間が下がってくる。この間先頭ではアタックが始まり、伊藤と平塚が先頭グループに追いつき、坂は次第にきつさを増していく。遅れる選手が始める中、平塚が後方に下がってくる。一気に遅れるだろうという走りだが粘る。チームカーはすぐ後ろであらゆる情報を与え、檄を飛ばす。この状態は前方の伊藤と柿沼にも聞こえているので、すぐ後ろにいることに気がつく。頂上まで1km、10秒ほどの遅れが取り戻せない。このまま山頂を越えると危険だと判断して、柿沼を援護に下げさせ一気に集団に戻す事に成功した。先頭に3人残っているチームは4チーム。ゴールまでの激しい坂の連続でマレーシアとイランの選手が遅れ、チームの戦いは日本とフィリピンの2チームだ。この時点で平塚の体力は限界に来ている。伊藤と柿沼は平塚を助けながらゴールを目指し、3人を含むグ

ループでゴールチーム総合で2位に浮上した。

第5ステージ 内間と1ポイント差でポイントリーダージャージを着る、ベトナムの選手からジャージを奪う作戦でスタート。越海に攻撃の支持をだすが、タイミングが遅れる。その間、内間がアタックに成功するが、ベトナムの選手が内間から離れず2人と勝負になる。後方車両からスプリント体制に入った内間に、絶対確保するように指示。ベトナムの選手も必死でラインを左に取り、前方落車の危険があるために、ここはスプリントを中止するように指示をだしたがやりあう。直後に確保しましたと無線が流れ、これでポイントリーダーを確保。このまま集団はゴールを目指し、ゴールでも内間が5位、伊藤が6位と健闘して、ポイントジャージとスプリントジャージの2枚を内間が確保。

第6ステージ 最終ステージで守るのはチーム総合2位。ここから1位逆転はありえないが、逆転される可能性は十分にある。これがエリートなら攻撃あるのみだが、危険は冒せないのが原状だ。イランチームに協力するヨーロッパ勢が集団をコントロール。これが日本チームの攻撃を妨げ、マイナス方向に進む。越海の渾身の逃げも追撃され失敗。スプリント、ポイントリーダーの内間をも守りきれぬのが課題だが、坂の中腹にあるポイントが厳しい。予測どおりジャージをあげ渡してしまう。残り30km伊藤に最後の勝負をたくし攻撃開始。7名ほど逃げ始めるが、未舗装の1kmで集団につめられる。さらにシフトレバーにトラブル、変速不可能になる。代車の準備を整えるが、このままゴールに向かいたいと無線が入り、危険を冒すよりもこのまま集団ゴールを無難にこなさせる方向で走らせた。(三浦恭資)

【競技結果】

2007ツアー・オブ・タイランド UCIアジアツアー-2.2 (2007/12/16-21 日)

個人総合成績

1	AHAD Kazemi Sarai IRI	28:41:45
2	SUSANTO Tonton INA	28:41:49
3	HOSSEIN Jahanbanian IRI	28:41:51
10	柿沼 章 栃木 チームミヤ	28:45:22
11	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	28:48:46
15	平塚 吉光 静岡 パールズミ	28:53:31
23	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	29:03:23
34	三船 雅彦 JPN マトリックス	29:11:28
41	越海 誠一 大分 日本大学	29:12:00
43	松村 光浩 JPN マトリックス	29:13:58
52	辻 善光 JPN マトリックス	29:37:56

53 日置 大介 JPN マトリックス 29:45:16

団体総合成績

1	Philippines	72:01:07
2	日本	72:04:40
3	Thailand	72:11:02

ポイント賞

1	KOVAC Maros SVK	51p
2	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	50p
3	三船 雅彦 JPN マトリックス	50p

第1ステージ (146.58km)

1	MAHAWONG Prajak THA	3:32:25
2	VALENZUELA Irish PHI	3:32:25
3	MAI Nguyen Hung VIE	3:32:41
8	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	3:32:43
12	柿沼 章 栃木 チームミヤ	3:32:43
27	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	3:35:58
48	平塚 吉光 静岡 パールズミ	3:40:52
58	越海 誠一 大分 日本大学	3:40:52

第2ステージ (184.8km)

1	三船 雅彦 JPN	4:44:53
2	DAVADILLA Warren PHI	4:44:53
3	KOVAC Maros SVK	4:44:53
7	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	4:44:53
11	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	4:44:53
14	柿沼 章 栃木 チームミヤ	4:44:53
38	平塚 吉光 静岡 パールズミ	4:44:53
43	越海 誠一 大分 日本大学	4:44:53

第3ステージ (205.02km)

1	BERTING Matthias GER	4:57:47
2	Lekhawat Jatuphoom THA	4:47:51
3	KLEINSORGEN VON Christoph GER	4:58:54
5	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	4:58:54
41	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	4:58:54
47	越海 誠一 大分 日本大学	4:58:54
60	平塚 吉光 静岡 パールズミ	4:58:54
63	柿沼 章 栃木 チームミヤ	4:58:54

第4ステージ (214km)

1	AHAD Kazemi Sarai IRI	6:08:08
2	SUSANTO Tonton INA	6:08:08
3	HOSSEIN Jahanbanian IRI	6:08:08
5	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	6:11:39
11	柿沼 章 栃木 チームミヤ	6:11:39
13	平塚 吉光 静岡 パールズミ	6:11:39
39	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	6:29:50
44	越海 誠一 大分 日本大学	6:29:50

第5ステージ (208km)

1	VAN RUITENBEEK Malaya NED	5:29:40
2	AHMAD LUFTI MD Fauzan MAS	5:29:40
3	SAI-UDOMSIN Phuchong THA	5:29:40
6	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	5:30:26
7	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	5:30:26
18	柿沼 章 栃木 チームミヤ	5:30:26
19	平塚 吉光 静岡 パールズミ	5:30:26
48	越海 誠一 大分 日本大学	5:30:40

第6ステージ (146.80km)

1	KLEINSORGEN VON Christoph GER	3:46:47
2	KOVAC Maros SVK	3:46:47
3	三船 雅彦 JPN マトリックス	3:46:47
4	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	3:46:47
26	平塚 吉光 静岡 パールズミ	3:46:47
29	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	3:46:47
32	柿沼 章 栃木 チームミヤ	3:46:47
49	越海 誠一 大分 日本大学	3:46:51

ジョルジア・マレーシア

内間がステージ2、3、5位を獲るが、落車棄権

アジアツアー3戦目となり、各チームのコンディションも良く、ツール・ド・タイに比べ今回は参加するチーム、選手のレベルが高い。

参加国は21チーム、日本からはナショナルチーム、スキルシマノ、マトリックスが参加。ナショナルチームは飯島誠、内間康平、伊藤雅和、福田真平、窪木一茂、吉田隼人の6人編成。

第1ステージ 179.7km 曇 35℃ PUTRAJAYA - PORTDICKSON

初日スタートからアタックが開始される。44km地点カテゴリー4の坂で遅れだす選手がいるが、日本チームは前方でクリアする。2回目のKOMで、12名ほどの強力な逃げに窪木が乗る。

窪木は各チームのエース格と逃げ続けるが、足が痙攣している。ジュニアでいきなりエリートのレースはきつい？ それでも126km地点のKOMをクリアし、残りは平地のみ。

追撃グループは先頭交代して前を追うが、一向に詰まらない。窪木にはエースとして戦う力は無いため、後続の日本チームに追撃を指令。飯島がアタックを開始した。スピードが上がリ集団が分断し、飯島ら6人が差を詰め始める。逆に窪木は膝の調子が思わしくなく、先頭集団から離脱。

結局6人のグループは1分差まで詰めたが、先頭集団はペースをくずさず逃げ切られた。

第2ステージ 139.5km 曇り 35℃ SEREMBEN - MELAKA

第2ステージでも日本チームは、スタートからアタックを見せた。内間が中間スプリント70kmを前に12名ほどで逃げるが、スプリント賞狙いのチームLA2が後続集団を引っ張り、後数キロでポイントラインという所でつかまってしまう。

道が細く集団のペースが速いところで伊藤がパンク。直後に吉田が落車するが大事に至らず集団復帰。この数十分後に水を取りにきて、前方にあがる窪木が落車。大きく遅れ、復帰不可能と判断して見捨てる。

一気にスピードアップするチームカーから窪木の姿が消えていく。この

間、飯島が数名で逃げ始めたとの情報が入る。その後、窪木が後続車両に追いついたと最後尾のマトリックスチームカーから無線が入る。まさかこの状態で追いついてくるとは思わなかった。良く粘ったと感心させられた。

ここで集団から吉田を下げ、窪木を一気に集団に復帰させる。

残り50km、飯島を含む8名の逃げはスピードが上がらず、集団とほぼ2分の差。残り40km、リーダーチームのマルコポーロが先頭を引き、差を詰め始める。ここで飯島が単独でアタックするが残り3kmで吸収され、最後は集団スプリントになった。

ラスト400mのコーナーを伊藤が3番目で抜け、内間が追う。残り30mで内間が集団の先頭に出て優勝かと思われたが、2名にかわされ3位に終わる。

第3ステージ 163.8km 晴 38℃ BANDAR HILIR - BATU PAHAT

スタートから動くであろうと予測して、最初の動きに集中させる。ここで決まらなければ、44.9kmスプリントポイントを過ぎた小さな坂を利用して、勝負に出る作戦。作戦通り飯島が動いて一気に逃げる。イラン、インドネシア、マレーシア、マトリックス2名、シマノの土井が追いつき、7名が先頭集団を形成する。

当初の作戦はここで若手2名が先行する予定だったが、若手が動けず飯島が今日も動いた。飯島は連日の逃げによる体力の消耗を考え、体力を温存する計画だった。若手が逃げ遅れたのが目視で見えたので、すぐに逃げのグループをめぐりアタックをするように指示を出す。集団との差は開いていく一方。こうなれば飯島の区間優勝に切り替えるしかない。



後続との差が3分40秒に開くが、飯島以外はそれほど引けていない。ここでスプリントポイントを1位で通過して、ポイント賞2位に浮上した。残り30kmで勝負にでた飯島がスピードを上げる。それについたのはイランの選手だけで、他の選手は遅れていく。

141km地点のポイントを通すれば残りは20km、3分の差なら逃げ切れるはず。しかしチームカーのメーターで、スプリントポイントが異常に遠すぎる。おかしい。8kmの誤差などありえるはずが無いのに!? ゴールの距離が間違っているのだ。残り25kmで1分45秒差、イランの選手は引けないが最後の望みをかけ逃げ続ける。

優勝パターンに持ちこんだが距離のミスから、残り4kmで昨日と同様に捕まった。ここでゴール勝負に作戦を変更し、内間をリーダーにしてゴールを目指す。残り500mで大落車が発生し、窪木が巻き込まれ前輪バースト、歩いたのゴールとなった。

第4ステージ 177.8km 晴 39℃ BATU PAHAT - MUAR

『今日は逃さない。』可能性をかけた勝負で、窪木、伊藤、内間を含む11人が逃げ始めるが、何キロ走っても後方は追撃をやめない。最初のスプリントポイントを過ぎれば、後続の速度は落ちるだろうと判断。体力の消耗は激しいが高速で集団を引く。後続との差は1分。吸収射程圏内に入るが、逃げは辞めさせない。高速で追っている各チー

ムのアシストが消耗するのを待つ。作戦は成功して一気に差が開き始めた。

中間スプリントを内間が狙うが取れない。逃げに集中しているために威力が無いのだ。このまま11人の逃げは7分まで差をひろげる。残り30kmで無線機に異常が起こる。選手がかけた水が、無線機の電源をショートさせたのだ。すぐに聞こえる選手に無線のチェックをさせるが、回復しないまま最終の局面を迎える。

無線が使えない状態の中、残り15kmで伊藤が単独アタック。だが逃げ切れぬ。その後ペースが落ちけん制状態での走行。動きが止まった集団は危険で、行かれる危険性が高い。チームカーからレースの状況を知らせようもなく選手の判断に任せるしかない。ここでヨーロッパチームの選手がアタック。差が開き伊藤が集団を引いて追いかけるが、残り1.5kmのコーナーで痛恨の落車。優勝のチャンスを失ってしまった。窪木もシマノの狩野と共に脱落。ゴールスプリントに備えていた内間は集団でのスプリントを制したが、先頭には4秒届かず2位に終わった。

第5ステージ 133.7km 晴 38℃ GEAMS - KARAK

昨日奪い取ったチーム総合を守る事はもちろん大前提だが、いつものように勝利を狙い最初からアタックを試みる。

だが他チームのマークが厳しく動けない。後半8名ほどの逃げができるが、日本チームは動かずに、体力を温存して、次の日に勝負をかける。後続はかなりゆっくり走っているのに、先行した逃げは中々差が開かない。

残り30kmで差は詰まり始め、ゴールスプリントへ備える。残り10kmでの飯島の単独アタックは決まらず、残り3kmで集団落車。飯島も含まれるが危険と判断したためゆっくりゴールを目指す。

ゴール前700mで大落車、福田が道路に叩きつけられている。メカが対処してゴールを目指す。その先に内間が倒れているが、救急隊に任せる。

チーム総合1位は守りきる。

第6ステージ 122km 晴 38℃ Kuala Kubu Bharu - Genting

距離は短い最後に最大の山場、GENTINGの坂が待ち受ける。レース

が始まった時からこの日が勝負だろうと頭の中から離れなかった。

イランは日本チームを切離すために最大の努力をしてくる。スタート直後に福田が、イラン2名、デンマーク1名と逃げ始める。差は3分まで開き、87km地点の山岳を越える。想定以上のきつい山場。ここで後続のイランは勝負にできるが、下りきって集団はついにGENTINGの坂に突入。福田ら5人の逃げは時間の問題だ。後続の集団に戻り、最後の補給を渡した直後に集団落車。登りのエース伊藤が含まれているが、すぐに体制を整え集団に復帰する。だが既に集団は分かれていた。

懸命に追う伊藤にメカトラブル発生。修理するが無理だと判断、スペアバイクに乗り換えさせるが時すでに遅し、復帰不能な状態で頂上を目指す。この日イランの攻撃は止まらず、チーム総合1位を明け渡してしまった。吉田が良く粘ったが4分48秒遅れの20位。

第7ステージ 雷雨

雨と危険なコースによりレースキャンセル。ただし顔見せレースとなり、日本チームは昨日まで最大の力で戦った疲労もあるために、軽く走るのみに留めた。(三浦 恭資)

【競技結果】

2008年アジア・アフリカ (2008/1/7-13 アフリカ)

個人総合成績

1	SUSANTO Tonton L2A	21:32:38
2	MIZBANI Ghader TPT	21:32:49
3	JOHANSSON Frederick DAV	21:36:54
15	窪木 一茂 福島 学法石川高	21:44:56
30	吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高	21:48:56
38	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	21:49:50
40	飯島 誠 JPCA BS アンカー	21:50:49
44	福田 真平 神奈川 BS アンカー	21:51:19

団体総合成績

1	TABRIZ PETROCHEMICAL	64:54:33
2	日本ナショナルチーム	65:04:08
3	LE TUA CYCLING TEAM	65:04:23
12	SKIL SHIMANO	65:28:54
18	MATRIX POWERTAG	65:44:47

総合スプリント賞

1	MANAN Anuar L2A	29p
2	JAHABANIAN Hossein TPT	21p
3	HASSAN Suhardi KUL	15p
4	飯島 誠 JPCA BS アンカー	13p
9	福田 真平 神奈川 BS アンカー	6p

第1ステージ (179.7km)

1	LI Fu Yu MPC	4:12:19
2	STRAUSS Marcel STG	4:12:19
3	JACOB Nielsen TFE	4:12:19

7	飯島 誠 JPCA BS アンカー	4:13:26
32	福田 真平 神奈川 BS アンカー	4:15:36
45	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	4:15:36
79	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	4:18:25
85	吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高	4:18:25
88	窪木 一茂 福島 学法石川高	4:18:25

第2ステージ (139.5km)

1	MANAM Anuar L2A	3:07:55
2	KUDENTSOV Sergey MPC	3:07:55
3	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	3:07:55
7	福田 真平 神奈川 BS アンカー	3:07:55
8	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	3:07:55
46	飯島 誠 JPCA BS アンカー	3:07:55
62	窪木 一茂 福島 学法石川高	3:07:55
80	吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高	3:07:55

第3ステージ (163.8 km)

1	MANAN Anuar L2A	3:55:35
2	NATEGHI Hossein TPT	3:55:35
3	KUDENTSOV Sergey MPR	3:55:35
5	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	3:55:35
7	福田 真平 神奈川 BS アンカー	3:55:35
21	吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高	3:55:35
40	飯島 誠 JPCA BS アンカー	3:55:35
41	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	3:55:35
91	窪木 一茂 福島 学法石川高	3:55:35

第4ステージ (178.8km)

1	JOHANSSON Frederick DAV	4:04:31
2	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	4:04:34
3	SUSANTO Tonton L2A	4:04:34
8	窪木 一茂 福島 学法石川高	4:04:34
10	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	4:04:34
23	福田 真平 神奈川 BS アンカー	4:11:08
45	飯島 誠 JPCA BS アンカー	4:11:08
65	吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高	4:11:08

第5ステージ (133.7km)

1	MANAN Anuar L2A	3:00:54
2	NATEGHI Hossein TPT	3:00:54
3	HEYMANNS Cyrille DAV	3:00:54
22	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	3:00:54
27	窪木 一茂 福島 学法石川高	3:00:54
31	吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高	3:00:54
78	福田 真平 神奈川 BS アンカー	3:00:54
88	飯島 誠 JPCA BS アンカー	3:00:54
102	内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	3:00:54

第6ステージ (122.2km)

1	ASKARI Hossein TPT	3:10:11
2	McCANN David GNT	3:10:21
3	SUSANTO Tonton L2A	3:10:23
20	吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高	3:14:59
31	窪木 一茂 福島 学法石川高	3:17:14
46	福田 真平 神奈川 BS アンカー	3:20:14
51	飯島 誠 JPCA BS アンカー	3:21:59
74	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	3:25:16
内間 康平 沖縄 鹿屋体育大	DNS	

第7ステージ (52.2km)

1	畑中 勇介 JPN SKS	1:07:57
2	NATEGHI Hossein TPT	1:07:57
3	FITRIYANTO Hari PSN	1:07:57
14	福田 真平 神奈川 BS アンカー	1:18:14
37	飯島 誠 JPCA BS アンカー	1:18:14
49	伊藤 雅和 鹿児島 鹿屋体育大	1:08:27
51	吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高	1:08:27
65	窪木 一茂 福島 学法石川高	-1lap

2008シクロクロス世界選手権

好成績は残せなかったが、全員完走



イタリアのトレビゾで2008シクロクロス世界選手権が開催された。遠くにアルプスを望める会場は池に面しており、細長いもののがかなり広々とした印象。平坦基調とはいえ段状の地形をフルに活用したコースのアップダウンはかなりのもので、朝晩におりる霜が融け出すとパワーだけでなくバランス、テクニクも非常に重要になってくる。

昨年同様、1週間前にオランダで開催されたワールドカップには7選手が参戦し、泥コンディションの難コースを走ること世界選手権のコースに照準を合わせることができた。

1月26日、午前中のジュニアでは中山が快調な滑り出し。MTBでも世界選手権に出場しているほどの実力があるので泥の路面にも十分に対応でき、持てる力を出し切ったの37位。トップから3分18秒遅れはまずまずの結果である。高宮はスタート直後の落車の巻き添えになり集団を追いかける展開。その後も大きく順位をあげることができず-1ラップの60位。

午後はU23。午前のレースのような混乱もなく竹之内と伊澤がスタート。竹之内はコースを半周して目前に現れたときには集団前方の先頭が見える位置におり期待が持てたが、中盤順位を落としてしまった。しかしロスを最小限にとどめることができ36位でのゴール。伊澤は良い走りだったが、-1ラップの53位という結果であった。2選手ともアンダー2年目で着実に力をつけており、来年の走りが今から楽しみである。

翌27日、午前中の女子には国内選手権連覇中の豊岡、オランダ在住で今期ワールドカップでも調子の良い荻

島、そして世界戦初参戦の酒井の3選手が出走。荒れた路面は非常に滑りやすく気が抜けない。荻島は順調な滑り出しでこの滑る路面を果敢に攻め6分19秒差の31位でゴール。また、ヨーロッパでのシクロクロス経験の少ない酒井も冷静に走り抜き34位。豊岡は序盤の落車で完全にリズムが狂っ

てしまい最下位でのゴールとなった。午後はオランダ・ベルギーと強豪ひしめくエリート。1周目こそトップグループは数人の集団に分かれたが、序盤から20人ほどのトップ集団になりレースは進行。荒れた路面をものともしないスピードとテクニクは見ごたえ十分であり、ロードレースさながらの様相である。辻浦と小坂はこの集団に入ることが出来なかったが、良いスタートをきった。小坂は前半から積極的に走っていたが、キャンパーで勢い余って前輪を滑らせ、坂から落ちる格好で派手に落車し足首を負傷。後半機材トラブルもあり残念ながら-3ラップの62位。辻浦はペースが上がり下がりがりしたものの淡々と周回を重ね57位でゴール。

本大会では好成績を残せなかったが、悪条件下でもゴールできる選手が増えていることは日本選手が確実にレベルアップしている証拠だ。今後はジュニア・U23の選手を中心に更なる強化をしていきたいと思う。また、数年後に大きく飛躍できるような体制を築き上げる必要性を感じた。

(澤田 雄一)

【競技結果】

2008年シクロクロス世界選手権大会 (2008/1/26-27 イタリア・トレビゾ)

男子U17

1	BOOM Lars	NED	1:05:27.79
2	STYBAR Zdenek	CZE	+0:05.17
3	NYS Sven	BEL	+0:06.15
57	辻浦 圭一 奈良 BSアスカ		+7:16.35
62	小坂 正則 長野 スコレーシング		-3laps

男子U23

1	ALBERT Niels	BEL	51:11.66
2	DUVAL Aurelien	FRA	+0:38.90
3	COMINELLI Cristian	ITA	+0:46.35

36	竹之内 悠	京都 TREK	+3:52.49
53	伊澤 優大	滋賀 Bee Club	-1lap

男子ジュニア

1	JOUFFROY Arnaud	FRA	40:30.0
2	SAGAN Peter	SVK	+0:01.14
3	PETRUS Lubomir	CZE	+0:04.83
37	中山 和也	長野 スコレーシング	+3:18.28
60	高宮 正嗣	北海道 equipe mistral	-1lap

女子U17

1	KUPFERNAGEL Hanka	GER	45:15.55
2	VOS Marianne	NED	+0:13.98
3	LEBOUCHER Laurence	FAR	+0:17.72
31	荻島 美香	埼玉 アタレーシング	+6:19.26
34	酒井 真清	大阪 Testach	+8:05.81
36	豊岡 英子	大阪	+9:56.24

2007-08 UCIシクロクロスワールドカップ第7戦 (2007/12/26 ベルギー・Hofstade)

女子U17

1	SALVETAT Maryline	GER	40:52
2	VAN DEN BRAND Daphny	NED	+0:34
3	HORMES-RAVENSTIJN Reza	NED	+0:41
32	豊岡 英子	大阪	+5:49
35	荻島 美香	埼玉 De Volharding	+6:45

2007-08 UCIシクロクロスワールドカップ第8戦 (2008/1/13 フランス・Lievin)

女子U17

1	KUPFERNAGEL Hanka	NED	35:01
2	SALVETAT Maryline	FRA	+0:12
3	LEBOUCHER Laurence	FRA	+1:03
29	荻島 美香	埼玉 De Volharding	+6:12

2007-08 UCIシクロクロスワールドカップ第9戦 (2008/1/20 オランダ・Hoogerheide)

男子U17

1	BOOM Lars	NED	1:04:43
2	WELLENS Bart	BEL	+0:36
3	VERVECKEN Erwin	BEL	+1:12
35	辻浦 圭一 奈良 BSアスカ		+8:06

男子U23

1	ALBERT Niels	BEL	56:46
2	DRUCKER Jempy	LUX	+1:46
3	DUVAL Aurelien	FRA	+2:14
31	竹之内 悠	京都 TREK	-1lap
	伊澤 優大	滋賀 Bee Club	DNF

男子ジュニア

1	JOUFFROY Arnaud	FRA	43:02
2	PETRUS Lubomir	CZE	+0:15
3	KONWA MAREK	POL	+0:22
	高宮 正嗣	北海道 equipe mistral	DNF

女子U17

1	KUPFERNAGEL Hanka	GER	38:50
2	SALVETAT Maryline	FRA	+0:57
3	WYMAN Helen	GBR	+1:08
34	荻島 美香	埼玉 De Volharding	+5:28
37	豊岡 英子	大阪	+6:26
41	酒井 真清	大阪 Testach	+9:43

2008年度主要事業予定(案)

期 日	大会・事業名	種 目	場 所
4月	06日	第33回チャレンジサイクルロードレース大会	RR 静岡/日本 CSC
	10日～17日	第28回アジア自転車競技選手権大会/第15回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会	TR/RR 奈良/奈良
	20日	第24回全日本 BMX 選手権大会	BMX 茨城/ひたちなか
	27日	第42回全日本実業団東日本ロードレース大会	RR 群馬/群馬 CSC
	29日	第10回全日本学生選手権クリテリウム大会	RR 滋賀/立命館大学
5月	03日～05日	MTB ジャパンシリーズ J1 箱館山 XCO#1/DHI#1	MTB 滋賀/高島
	09日～11日	第10回 TOUR de 熊野	RR 和歌山/紀州
	10日～11日	第48回東日本学生選手権自転車競技大会	TR 東日本地区
	11日	第55回全日本プロ選手権自転車競技大会トラックレース	TR 奈良/奈良
	11日	第28回西日本学生選手権自転車競技大会	TR 西日本地区
	17日～18日	MTB ジャパンシリーズ J1 泉ヶ岳 XCO#2	MTB 宮城/仙台
	17日	第10回修善寺カップ女子オープントラック・ロードレース大会	TR/RR 静岡/日本 CSC
	18日	第10回門田杯 U-23 ロードレース大会	RR 静岡/日本 CSC
	18日～25日	第12回ツアー・オブ・ジャパン	RR 大阪～東京
	24日～25日	第77回全日本アマチュア自転車競技選手権大会トラックレース	TR 大阪/関西 CSC
	24日～25日	2008年 JOC ジュニアオリンピックカップ自転車競技大会	TR 大阪/関西 CSC
	24日～25日	MTB ジャパンシリーズ J1 八幡浜インターナショナルクロスカントリー XCO#3	MTB 愛媛/八幡浜
	28日～6/1	2008年 BMX 世界選手権大会	BMX 中国/太原
	31日～6/1	第11回全日本自転車競技選手権大会ロードレース	RR 広島/中央森林公園
	31日～6/1	第77回全日本アマチュア自転車競技選手権大会ロードレース	RR 広島/中央森林公園
31日～6/1	第13回ジュニア全日本選手権ロードレース	RR 広島/中央森林公園	
31日～6/1	MTB ジャパンシリーズ J1 富士見 XCO#4/DHI#2	MTB 長野/富士見	
6月	08日	2008年全日本選手権個人タイムトライアル・ロードレース	RR 秋田/大湯
	08日	第12回全日本実業団個人タイムトライアル・ロードレース選手権大会	RR 長野/桐池
	14日～15日	第11回全日本自転車競技選手権大会トラックレース	TR 群馬/グリーンドーム前橋
	14日～15日	第24回全日本学生選手権個人ロードレース大会	RR 長野/奥木曾湖
	17日～22日	2008年 MTB 世界選手権大会	MTB イタリア/ヴァル・ディ・ソレ
	22日	第42回全日本実業団西日本ロードレース大会	RR 広島/中央森林公園
	26日	北京オリンピック代表選手社行会	- 東京/東京ドーム
	28日	第47回全日本学生選手権チームロードレース大会	RR 秋田/大湯
	29日	第20回全日本学生個人ロードタイムトライアル自転車競技大会	RR 秋田/大湯
28日～29日	第42回全日本実業団西日本自転車競技大会	TR 大阪/関西 CSC	
7月	05日～06日	第49回全日本学生選手権自転車競技大会	TR 静岡/日本 CSC
	12日～20日	2008年ジュニア世界選手権大会	TR/RR 南アフリカ/ケープタウン
	13日	第1回全日本実業団サイクルロードレース in 奈良	RR 奈良
	19日～21日	2008年全日本 MTB 選手権大会 XCO/DHI	MTB 秋田/田沢湖
	20日	第7回全日本実業団サイクルロードレース in 石川	RR 福島/石川
	26日～27日	MTB ジャパンシリーズ J1 白馬さのさか XCO#5	MTB 長野/白馬
27日	第5回全日本実業団サイクルロードレース in 小川	RR 長野/小川	
8月	01日～05日	平成20年度全国高等学校総合体育大会	TR/RR 埼玉/さいたま・秩父
	02日	MTB ジャパンシリーズ JX ユース・クロスカントリー	MTB 長野/白馬
	09日～10日	第39回全日本実業団東日本自転車競技大会	TR 未定
	09日～23日	第29回オリンピック競技大会	TR/RR/MTB/BMX 中国/北京
	24日～26日	第43回全国都道府県対抗自転車競技大会	RR/TR 新潟/南魚沼・弥彦
	28日～8/31	文部科学大臣杯第64回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	TR/RR 長野/松本・大町
31日	第25回シマノ/鈴鹿国際ロードレース大会	RR 三重/鈴鹿	
9月	06日～07日	経済産業大臣旗第42回全日本実業団対抗サイクルロードレース大会	RR 岩手/紫波
	11日～15日	2008 ツール・ド・北海道国際大会	RR 北海道/道北～道央
	20日～21日	第39回全日本実業団自転車競技選手権大会	TR 静岡/日本 CSC
	21日	日本スポーツマスターズ2008 自転車競技	RR 高知/高知
	24日～28日	2008年ロード世界選手権大会	RR イタリア/ヴァレーゼ
	26日～28日	MTB ジャパンシリーズ J1 白鳥 DHI#3	MTB 岐阜/白鳥
28日～10/2	第63回国民体育大会自転車競技会	RR/TR 大分/日田・別府	
10月	04日～05日	第40回全日本学生室内自転車競技選手権大会	ID 東京/東京工業大学
	04日～05日	MTB ジャパンシリーズ J1 富士見 XCO#6/DHI#4	MTB 長野/富士見
	12日	第44回全日本学生自転車競技新人戦東日本大会	TR 東日本地区
	12日	第44回全日本学生自転車競技新人戦西日本大会	TR 西日本地区
	(未定)	MTB ジャパンシリーズ J1 瀬女高原 Final	MTB 石川/白山
	12日～13日	MTB ジャパンシリーズ J2 箱館山 XCO/DHI	MTB 滋賀/高島
	18日～19日	MTB ジャパンシリーズ J3 木島平クロスカントリー・マラソン XCM	MTB 長野/木島平
	18日～19日	MTB ジャパンシリーズ J3 白馬 24時間 XCE	MTB 長野/白馬
	19日	輪島災害復興ロードレース	RR 石川/輪島
	24日～26日	2008年世界室内自転車競技選手権大会	ID オーストリア/ドルンビルン
25日～26日	MTB ジャパンシリーズ J2 日本サイクリススポーツセンター XCO	MTB 静岡/日本 CSC	
26日	第4回全国ジュニア自転車競技大会	RR 三重/四日市	
26日	2008 ジャパンカップサイクルロードレース	RR 栃木/宇都宮	
11月	03日	2008全日本チーム対抗自転車競技大会	TR 静岡/日本 CSC
	06日～10日	2008年 MTB アジア選手権大会 XCO/DHI	MTB ネパール/カトマンズ
	09日	ツール・ド・おきなわ 2008	RR 沖縄/名護他
	22日～23日	第39回全日本室内自転車競技選手権大会	ID 東京/東京工業大学
01月	31日～2/1	2009年シクロクロス世界選手権大会	CX オランダ
3月	下旬	平成20年度全国高等学校選抜自転車競技大会	TR/RR 福岡/北九州
	26日～29日	2009年トラック世界自転車競技選手権大会	TR ポーランド

※ TR: トラックレース, RR: ロードレース, CX: シクロクロス, MTB: マウンテンバイク, BMX: BMX, ID: 室内競技

北京オリンピックの選手選考について



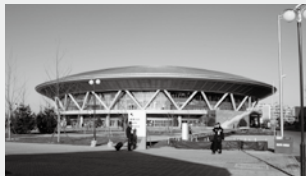
＜トラックレース＞

選手選考については、4つの下記基準を選考過程に取り入れ、それぞれの選考基準に基づき、総合的に判断し選考する。

選考基準(男・女)

- 1: 2007～2008年 UCIトラック・ランキング
(2007年4月1日～2008年3月31日)
- 2: 2007～2008年 UCIワールドカップ・クラシックス
(2007年11月～2008年2月; 第1～4戦)
- 3: 2008年 UCI世界選手権大会
(2008年3月)
- 4: 2007年全日本選手権大会
(2007年10月)

選手の事故等により欠員が生じた場合は、強化委員会を経て選手選考委員会を開催し、強化指定選手の中から選考する。



＜マウンテンバイク＞

選手選考については、前回アテネ五輪の時と同様に代表選考会は1大会のみとし、それまでの全国大会上位者、および2007年度ランキング上位者から選考する。

選考基準(男・女)

強化指定選手の中から、2008年J八幡浜国際クロスカントリー競技大会(5月25日・愛媛県)での日本人最高順位獲得者とする。
なお、派遣辞退の競技者がいた場合は成績順に従って繰り上げ選考することがある。

強化指定選手の選考については、次の順により選考する。
(日本国籍者のみ)

- ・2007年度日本ランキング: 上位男子10名・女子5名
- ・2008年ジャパン・シリーズ第1戦
(5月5日・滋賀県高島市): 上位男子10名・女子5名
- ・2008年ジャパン・シリーズ第2戦
(5月18日・宮城県仙台市): 上位男子10名・女子5名
- ・マウンテンバイク小委員会特別推薦者: 最大男女1名
- ー以上強化指定選手: 最大男子31名・女子16名ー

＜ロードレース＞

選手選考については、3つの下記基準を選考過程に取り入れ、それぞれの選考基準に基づき、総合的に判断し選考する。

選考基準(男・女)

- 1: 2007～2008年 UCIロード・ランキング
男子(2007年10月1日～2008年5月31日)
女子(2008年5月31日付)
- 2: 2008年アジア選手権大会
男・女(2008年4月)
- 3: 2008年全日本選手権大会
男・女(2008年6月)

選手の事故等により欠員が生じた場合は、強化委員会を経て選手選考委員会を開催し、強化指定選手の中から選考する。



＜BMX＞

選手選考については、2008年5月31日の世界選手権大会(中国)の成績に基づき選考する。

選考基準(男・女)

強化指定選手の中から次の基準により順次選考する。
・2008年世界選手権大会(中国)での日本人最高順位獲得者(1/16決勝以上進出者)
・2008年世界選手権大会(中国)終了時点での国際ランキング最高順位獲得者

強化指定選手の選考については、次の順により選考する。

- ・2007年世界選手権大会終了時点での国際ランキング日本国籍者上位男女3名。
- ・2007年環太平洋選手権大会での日本国籍者上位男子2名・女子1名。(但し準々決勝以上進出者)
- ・2007年スーパークロス大会(中国)での日本国籍者上位男子2名・女子1名。(但し準々決勝以上進出者)
- ・BMX小委員会特別推薦者、最大男女1名
- ー以上強化指定選手: 最大男子9名・女子6名ー

2008年JCFジュニア選手強化事業について

(強化指定の意義と目的)

- 1 強化指定とは、将来、日本を代表してオリンピックや世界選手権においてメダル獲得を目標とし、その資質を持つ選手を(財)日本自転車競技連盟(以下、JCF)が選考し、特別に強化・育成していくことを目的とする。
また、ナショナル・チームとは、原則として強化指定選手の中から、JCFが指名した選手により構成された、日本を代表して国際大会等に参加する選手団のことをいう。

(目標)

- 2 ジュニア・ナショナルチームの目標は、ジュニア世界選手権大会でのメダル獲得である。

(強化指定選手の指名)

- 3 強化指定選手は、JCFより指名される。その選考の基準は、全国クラスの大会等において、脚力、積極性、将来性、成績等を総合的に判断して、関係所属団体の推薦等を考慮したうえで、JCFジュニア強化育成部会の推薦に基づき、JCF強化委員会・同本部会において決定される。
※ 2008年は、3月に開催される全国高等学校選抜自転車競技大会を第1次選考大会とし、選考後の強化事業(合宿・大会派遣)等において順次選抜される。ただし、1990年3月31日以前に生まれた高校3年生については、3月に開催される全国高等学校選抜自転車競技大会開催時に選考会を行う。

(指定期間)

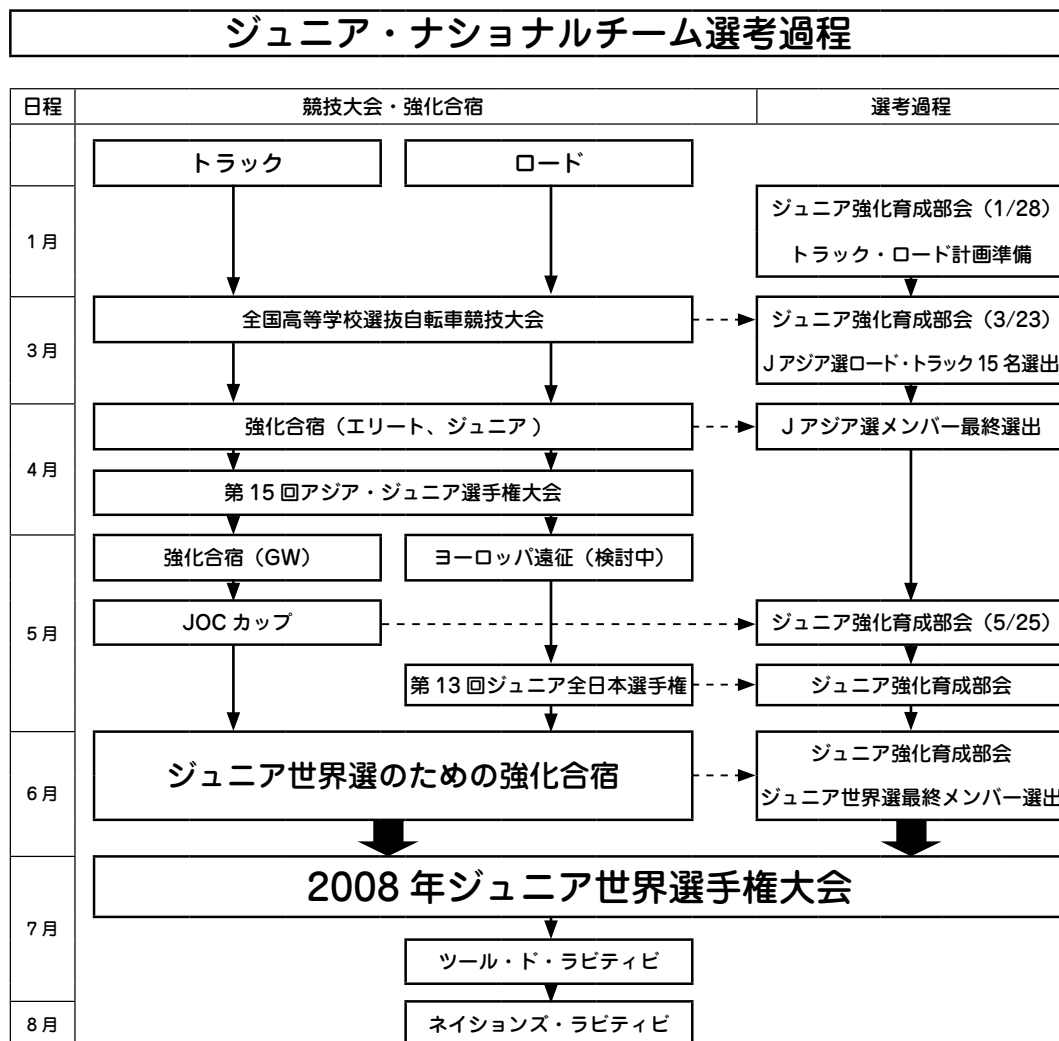
- 4 指定期間は、発表後から当該年のジュニア世界選手権大会終了時、または計画された事業終了日までとする。

(強化事業)

- 5 JCFで計画した海外派遣大会・強化合宿・各種研修等である。

(その他)

- 6 強化指定選手にはナショナルジャージ貸与の他、強化事業に招聘され、トレーニング・研修の機会が与えられる。ただし、事業によっては選手に応分の負担が生じることもある。



2007-2008 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス
第3戦 日本代表選手団

大会名 2007-2008 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス第3戦
開催場所 アメリカ・ロサンゼルス
大会期間 2008年1月18日～20日
派遣期間 2008年1月11日～22日
代表選手団
監督 フレデリック・マニエ (JCF ナショナルディレクター)
選手 伏見 俊昭 (JPCA・福島)
渡邊 一成 (JPCA・福島)
永井 清史 (JPCA・岐阜)
北津留 翼 (JPCA・福岡)
飯島 誠 (JPCA・プリヂェストンアンカー)
盛 一大 (愛知・愛三工業)

マレーシア室内自転車競技国際大会
日本代表選手団

大会名 2008 Teluk Danga
インターナショナルゲームズ
2008 アジア室内自転車競技選手権大会
2008 UCI サイクルサッカーワールドカップ
開催場所 マレーシア・Johor Bahru
大会期間 2008年2月23日～24日
派遣期間 2008年2月22日～25日
代表選手団
チーム名 井上 徹
(日本室内自転車競技連盟・理事)
選手 サイクルサッカー
現王園仁志 (鹿児島)
手島 敏光 (福岡)
大野 和俊 (神奈川)
芦塚 正博 (東京)
サイクルフィギュア
芦田 史朗 (千葉)

2007-2008 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス
第4戦 日本代表選手団

大会名 2007-2008 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス第4戦
開催場所 デンマーク・コペンハーゲン
大会期間 2008年2月15日～17日
派遣期間 2008年2月8日～19日
代表選手団
監督 フレデリック・マニエ (JCF ナショナルディレクター)
選手 伏見 俊昭 (JPCA・福島)
渡邊 一成 (JPCA・福島)
永井 清史 (JPCA・岐阜)
北津留 翼 (JPCA・福岡)
飯島 誠 (JPCA・プリヂェストンアンカー)
盛 一大 (愛知・愛三工業)
角 令央奈 (兵庫・鹿屋体育大学)

2007 UCI サイクルサッカー
ワールドカップ FINAL 日本代表選手団

大会名 2007 UCI サイクルサッカー
ワールドカップ FINAL
開催場所 オーストリア・Dornbirner
大会期間 2008年3月8日
派遣期間 2008年3月6日～10日
代表選手団
選手 松田 鋼 (東京)
木下 直也 (大阪)

'08 インターナショナル・ケイリン・イベント 日本代表選手団

大会名 '08 インターナショナル・ケイリン・イベント
開催場所 デンマーク・コペンハーゲン
大会期間 2008年2月17日 (日)
派遣期間 2008年2月12日 (火)～19日 (火)
代表選手団
選手 岡部 芳幸 (JPCA・福島)・佐藤慎太郎 (JPCA・福島)・手島 慶介 (JPCA・群馬)・伏見 俊昭 (JPCA・福島)
渡邊 一成 (JPCA・福島)・永井 清史 (JPCA・岐阜)・北津留 翼 (JPCA・福岡)

未永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

未永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱い説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

ROAD TO BEIJING

男女合計41種目にアジア諸国の有力選手が集結



第28回アジア自転車競技選手権大会
第15回アジア・ジュニア自転車競技選手権大会

奈良
Asian
CYCLING
CHAMPIONSHIPS
2008
NARA



<http://www.jcf.or.jp>

主催:アジア自転車競技連合/財団法人日本自転車競技連盟

トラックレース 4月10日(木)~13日(日) 奈良県営競輪場

入場無料/各日8:00開場、9:00競技開始(予定)



ロードレース 4月15日(火)~17日(木) 奈良市/山添村・布目ダム周回コース

観戦無料/各日9:30競技開始(予定)

競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

2007-08 UCIトラック・ワールドカップ・クラシクス第3戦 (2008/1/18-20 アメリカ・ロサンゼルス)

男子スプリント

- 1 CHIAPPA Roberto ITA
- 2 SIREAU Kevin COF
- 3 MULDER Teun NED
- 11 渡邊 一成 JPCA 福島
- 14 北津留 翼 JPCA 福岡

男子チームスプリント

- 1 COFIDIS 44.490
- 2 FRANCE 44.833
- 3 AUSTRALIA 45.244
- 7 日本 北津留・永井・渡邊 46.073

男子ケリッ

- 1 TOURNANT Arnaud COF
- 2 VOLIKAKIS Christos GRE
- 3 BAYLEY Ryan TOS
- 13 伏見 俊昭 JPCA 福島

男子スクラッチ

- 1 WONG Kam-Po HKG
- 2 KIRYIENKA Vasili BLR
- 3 STROETINGA Wim NED
- 盛 一大 愛知 愛三工業

男子ポイントレース

- 1 MEYER Cameron AUS 23 p
- 2 RATAJCZYK Rafal POL 20 p
- 3 NEWTON Chris RCY 15 p
- 飯島 誠 JPCA BSアンカー 予選敗退

男子マディソン

- 1 BELGIM BEL 8p
- 2 DENMARK DEN (-1) 18p
- 3 GERMANY GER (-1) 12p
- 日本 飯島・盛 DNS

—平成19年度地区7人自転車競技大会—

北日本地区

(2007/10/10 青森・青森 400m)

スプリント

- 1 渡邊 一成 福島
- 2 成田 和也 福島
- 3 菅田 和宏 宮城

1kmタイムトライアル

- 1 新田 祐大 福島 1:05.367
- 2 及川 裕奨 岩手 1:05.668
- 3 菅田 壱道 宮城 1:06.587

ケリッ

- 1 金成 和幸 福島
- 2 岡部 芳幸 福島
- 3 山崎 芳仁 福島

4km個人追抜競走

- 1 松崎伊佐央 福島 4:50.41
- 2 佐藤 悦夫 福島 5:02.07
- 3 佐々木孝司 青森 5:02.77

ポイントレース (10km)

- 1 佐藤 友和 岩手 20p
- 2 佐藤 朋也 秋田 15p
- 3 竹山 陵太 宮城 9p

チームスプリント

- 1 青森 及川・五日市・日当 1:17.59
- 2 福島 伏見・佐藤・佐々木 1:17.77
- 3 北海道 大森・菊地・中村 1:18.62

団体追抜競走

- 1 福島 松崎・佐藤・青森・金澤 4:35.53
- 2 宮城 高浜・小松・菅田・竹山 4:36.77
- 3 青森 佐々木・佐藤・石田・高谷 4:51.50

団体成績

- 1 福島
- 2 青森
- 3 宮城

関東地区

(2007/10/10 群馬・ケリッ・ム 335m)

スプリント

- 1 平原 康多 埼玉
- 2 山田 英樹 茨城
- 3 天田 裕輝 群馬

1kmタイムトライアル

- 1 稲村 成浩 群馬 1:04.084
- 2 矢口啓一郎 群馬 1:04.693
- 3 松田 優一 茨城 1:05.185

ケリッ

- 1 長塚 智広 茨城
- 2 幸田 光博 栃木
- 3 木村 貴弘 茨城

4km個人追抜競走

- 1 飯島 規之 埼玉 4:45.486
- 2 伊藤 太一 山梨 4:57.599
- 3 西村 行貴 東京 5:00.175

ポイントレース (16km)

- 1 白岩 大助 埼玉 26p
- 2 朝倉 佳弘 東京 18p
- 3 塚本 和宏 栃木 14p

チームスプリント

- 1 群馬 稲村・矢口・木暮 1:01.525
- 2 栃木 坂本・松岡・神山 1:02.633
- 3 茨城 長塚・須賀・山下 1:04.315

団体追抜競走

- 1 群馬 田中・手島・石川・篠原 4:31.26
- 2 埼玉 小沼・峠・井上・齋藤 4:39.90
- 3 栃木 神山・飯嶋・宗景・阿久津 4:40.30

南関東地区

(2007/10/10 神奈川・平塚 400m)

スプリント

- 1 石橋慎太郎 静岡
- 2 齋藤 友幸 静岡
- 3 大塚 英伸 静岡

1kmタイムトライアル

- 1 田中 晴基 千葉 1:06.043
- 2 山本 健也 千葉 1:06.509

- 3 法月 成祐 神奈川 1:07.277

ケリッ

- 1 鈴木 誠 千葉
- 2 海老根恵太 千葉
- 3 望月 永悟 静岡

4km個人追抜競走

- 1 近藤 隆司 千葉 5:06.21
- 2 深澤 伸介 静岡 5:07.37
- 3 小嶋 雄太 神奈川 5:13.33

ポイントレース (16km)

- 1 海野 敦男 静岡 18p
- 2 齊藤 竜也 神奈川 16p
- 3 丸山 勝也 静岡 12p

チームスプリント

- 1 千葉 伊勢崎・中村・武井 1:15.82
- 2 静岡 渡邊・荻原・新田 1:16.37
- 3 神奈川 森川・福田・勝瀬 1:19.14

団体追抜競走

- 1 静岡A 松江・村本・山崎・片寄 4:39.46
- 2 神奈川 遠澤・梶山・島山・野村 4:40.31
- 3 静岡B 岡村・荒木・酒井・吉本 4:48.05

中部地区

(2007/10/10 三重・四日市 400m)

スプリント

- 1 金子 貴志 愛知
- 2 柴崎 淳 三重
- 3 森川 大輔 岐阜

1kmタイムトライアル

- 1 笹倉 慎也 富山 1:06.407
- 2 外山 三平 愛知 1:07.117
- 3 竹澤 浩司 富山 1:07.410

ケリッ

- 1 山口 富生 岐阜
- 2 海田 和裕 三重
- 3 志智 俊夫 岐阜

4km個人追抜競走

- 1 倉野隆太郎 愛知 4:47.65
- 2 日比野敏行 岐阜 5:01.02
- 3 山田 晃久 石川 5:08.06

ポイントレース (20km)

- 1 舛井 幹雄 三重 46p
- 2 鰐淵 正利 愛知 42p
- 3 永井 清史 岐阜 30p

チームスプリント

- 1 三重 浅井・柴崎・柴崎 1:15.139
- 2 愛知 島野・渡会・富永 1:16.698
- 3 富山 伊藤・松崎・笹倉 1:17.523

団体追抜競走

- 1 富山 坂上・坂上・岩本・藤川 4:37.48
- 2 三重 萩原・松岡・坂元・上田 4:45.69
- 3 岐阜 山口・加藤・白井・吉田 4:48.88

近畿地区

(2007/10/10 奈良・奈良 333.33m)

スプリント

- 1 川村 晃司 京都
- 2 松岡 健介 兵庫
- 3 中村 一将 兵庫

1kmタイムトライアル

- 1 稲垣 裕之 京都 1:04.732

2 村上 博幸 京 都 1:07.383
3 伊原 克彦 福 井 1:07.642

ケリッ

1 大井 啓世 奈 良
2 四元 隆裕 和歌山
3 金山 栄治 滋 賀

4km個人追抜競走

1 武田 和也 奈 良 4:59.215
2 木村 高士 福 井 5:00.525
3 櫻井 紀佳 滋 賀 5:03.840

ホィトルス (20km)

1 窓場加乃敏 京 都 47p
2 四宮 哲郎 京 都 39p
3 久保田奉文 福 井 33p

チームリット

1 福井 伊原・松山・渡辺_航 1:03.696
2 京都 村上_義・稲垣・村上_博 1:03.840
3 兵庫 筒井・中村・藤田 1:05.531

団体追抜競走

1 福井 渡辺_航・渡辺_十・久保田・鷺田 4:35.472
2 京都 窓場・山岸・久米・岩崎 4:37.250
3 大阪 藤野・菊谷・中澤・稲川 4:43.776

中国地区

(2007/10/10 広島・広島 400m)

リット

1 前反祐一郎 広 島
2 友定 祐己 岡 山
3 渡部 一之 広 島

1kmタイムトライアル

1 三宅 達也 岡 山 1:06.199
2 大川 龍二 広 島 1:06.982
3 隅田 幸助 広 島 1:08.054

ケリッ

1 富 弥昭 山 口
2 桑原 大志 山 口
3 小林 豊 広 島

4km個人追抜競走

1 藤原 悠斗 岡 山 5:03.45

2 中井 健司 岡 山 5:03.53
3 工 正信 広 島 5:07.45

ホィトルス (20km)

1 岩津 裕介 岡 山 47p
2 齋藤 勝 広 島 45p
3 池田 良 広 島 23p

チームリット

1 岡 山 石丸・榊原・筒井 1:15.97
2 広 島 和田・中石・西田 1:17.89
3 山 口 井山・隅_吉・隅_貴 1:18.69

団体追抜競走

1 岡山 中山・近藤・丹波・新村 4:35.58
2 広島 石田・郡・吉本・大屋 4:45.96
3 山口 村上・江本・岡崎・出見 4:58.79

団体成績

1 岡 山
2 広 島
3 山 口

四国地区

(2007/10/10 香川・高松 400m)

リット

1 山中 貴雄 高 知
2 高原 仁志 徳 島
3 堤 洋 徳 島

1kmタイムトライアル

1 大西 祐 香 川 1:06.173
2 橋本 強 愛 媛 1:07.111
3 池田 周平 高 知 1:07.737

ケリッ

1 佐々木則幸 高 知
2 小川 圭二 徳 島
3 西村 正彦 高 知

4km個人追抜競走

1 鳥生 知八 愛 媛 4:54.41
2 宇根 秀俊 愛 媛 5:11.34
3 池本 和俊 高 知 5:18.51

チームリット

1 愛媛 濱田・渡部・岡本 1:16.60
2 徳島 木村・三ツ石・湊 1:19.75

3 香川 宮本・大林・池田 1:19.88

団体追抜競走

1 愛媛 上田・和田・大崎・武田 4:45.03
2 香川 山本・眞鍋・網谷・原 4:52.33
3 高知 中村・武市・沖・藤原 4:56.53

九州地区

(2007/10/10 福岡・小倉 400m)

リット

1 北津留 翼 福 岡A
2 富永 昌久 佐 賀
3 吉本 卓仁 福 岡B

1kmタイムトライアル

1 中川誠一郎 熊 本A 1:04.378
2 服部 克久 熊 本A 1:07.165
3 山田 英明 佐 賀 1:07.286

ケリッ

1 加倉 正義 福 岡B
2 合志 正臣 熊 本A
3 西川 親幸 熊 本A

4km個人追抜競走

1 松岡 孔明 熊 本A 4:54.36
2 大久 保聡 鹿児島 5:00.66
3 松尾信太郎 福 岡A 5:02.34

リミネーション

1 林 次郎 福 岡A
2 四元 慎也 宮 崎
3 加藤 昌平 福 岡A

チームリット

1 熊本A 島田・松本・中川 1:15.06
2 福岡B 坂本・中園・坂本 1:16.12
3 大分 大野・吉川・松田 1:18.08

団体追抜競走

1 大分 大塚・加藤・安東・小岩 4:26.25
2 佐賀 原・坂本・草場・一ノ瀬 4:29.32
3 福岡B 柗元・梶山・白水・稲吉 4:34.80

団体成績

1 熊 本A
2 福 岡B
3 佐 賀

2008年シクロクロス世界選手権大会 日本代表選手団

大会名 2008年シクロクロス世界選手権大会

開催場所 イタリア・Treviso (トレヴィーゾ)

大会期間 2008年1月26日～27日

派遣期間 2008年1月23日～29日(ワールドカップ組*は1月18日～29日)

代表選手団

監督 澤田 雄一

総務 矢野 淳

コーチ 大門 宏

ドクター 富樫 慎治

メカニック 松井 正史・石垣 鉄也・西 勉・中島 康仁、杉原 卓磨(アシスタント)

マッサー 宮島 正典

選手

男子リット 辻浦 圭一*(奈良・チームプリヂストン・アンカー)・小坂 正則(長野・スワコレーシングチーム)

男子U23 竹之内 悠*(京都・TREK)・伊澤 優大*(滋賀・Bee Club)

男子ジュニア 中山 和也(長野・スワコレーシングチーム)・高宮 正嗣*(北海道・equipe mistral)

女子リット 豊岡 英子*(大阪)・荻島 美香*(埼玉・アライレーシング)・酒井 真清*(大阪・Testach Racing)

北京五輪・女子マウンテンバイク参加資格枠獲得!

2008年1月7日付で国際自転車競技連合(UCI)より日本オリンピック委員会(JOC)に、2008年オリンピック競技大会マウンテンバイク女子参加資格枠1枠を獲得した旨の通知があった。

読売新聞社「第57回日本スポーツ賞」

読売新聞社主催「第57回日本スポーツ賞」競技団体別優秀賞にアジア選手権スプリント3連覇を果たした北津留 翼(JPCA・福岡)22歳が昨年に続き受賞した。

新理事の紹介

平成19年第2回臨時評議員会(書面審議)にて市川清義理事の後任として選任されました。

常務理事

倉升 善徳(59才)
クラマス ヨシノリ

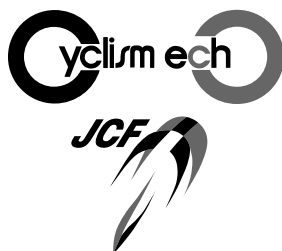
日本プロフェッショナルサイクリスト協会

2008年ツアーオブニュージーランド 日本代表選手団

大会名	2008年ツアーオブニュージーランド(UCI WE 2.2)
開催場所	ニュージーランド
大会期間	2008年2月27日～3月2日
派遣期間	2008年2月25日～3月3日
代表選手団	
監督	三浦 恭資(JCF強化コーチ)
メカニック	齋藤 健吾(JCFロード競技部会支援スタッフ)
マッサージ	酒井 聖美(JCFロード競技部会支援スタッフ)
選手	唐見実世子(JPCA・キナン CCD・サッカレツリ)
	山島 由香(大阪・サイクルベースあさひ)
	真下 正美(神奈川・プリヂェストンアンカー)
	豊岡 英子(大阪)
	萩原麻由子(群馬・鹿屋体育大学)
	和田見里美(鳥取・中京大学)

連盟の動き (12月中旬～2月中旬)

12月18日	平成19年度第8回広報部会	於:東京・日本自転車会館3号館3階
20日	2008年アジア選手権第1回実行委員会	於:奈良
21日	ツアー・オブ・サウスチャイナシー日本代表出発	於:ホンコン/中国/マカオ(帰国→1/1日)
22日	タスマニア・カーニバル日本代表出発	於:オーストラリア・タスマニア(帰国→1/1日)
1月5日	ジョルジア・マレーシア日本代表出発	於:マレーシア(帰国→14日)
11日	07-08トラックワールドカップ第3戦日本代表出発	於:アメリカ・ロサンゼルス(帰国→22日)
12日	JCF第1級公認審判員講習会	於:大阪(～14日)
23日	2008年シクロクロス世界選手権大会日本代表出発	於:イタリア・トレビーゾ(帰国→29日)
28日	第6回ジュニア強化育成部会	於:東京・日本自転車会館3号館3階
29日	平成19年度第5回常務理事会 兼 選手強化本部会	於:東京・日本自転車会館3号館4階
2月1日	平成19年度第2回医科学部会	於:東京・日本自転車会館3号館4階
6日	第3回未登録者レース検討委員会	於:東京・日本自転車会館3号館3階
8日	07-08トラックワールドカップ第4戦日本代表出発	於:デンマーク・コペンハーゲン(帰国→19日)
12日	08インターナショナル・ケイリン日本代表出発	於:デンマーク・コペンハーゲン(帰国→19日)

< JCF オフィシャル・スポンサー >**< JCF オフィシャル・サプライヤー >**

シクリスムエコー No.146 2008年2月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯 昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>